

市民記者が行く! 広報サポーターレポート



にしお本まつりで知る岩瀬弥助の偉大さと岩瀬文庫の素晴らしさ



広報サポーター
加古文雄さん(刈宿町)

106年続く岩瀬文庫と西尾市立図書館で、10月25日・26日に盛大に行われた、第9回にしお本まつり取材しました。



1



2

1. 恒例となった本のリサイクル市は開始直後から大盛況 2. 岩瀬文庫の貴重な蔵書を手に取れるミニミニ閲覧室。古の書物が現代によみがえります。

にしお本まつりは、ボランティア団体が中心となって「本のまち西尾」を広くアピールする

106年続く岩瀬文庫と西尾市立図書館で、10月25日・26日に盛大に行われた、第9回にしお本まつり取材しました。

にしお本まつりは、ボランティア団体が中心となって「本のまち西尾」を広くアピールする

106年続く岩瀬文庫と西尾市立図書館で、10月25日・26日に盛大に行われた、第9回にしお本まつり取材しました。

恒例となった本のリサイクル市は開始直後から大盛況 2. 岩瀬文庫の貴重な蔵書を手に取れるミニミニ閲覧室。古の書物が現代によみがえります。

恒例となった本のリサイクル市は開始直後から大盛況 2. 岩瀬文庫の貴重な蔵書を手に取れるミニミニ閲覧室。古の書物が現代によみがえります。

目玉企画です。今年はお茶の水女子大学名誉教授である外山滋比古さんの講演会が行われました。寺津町生まれで、刈宿町育ちの外山さんは、平成5年にふるさと市民顕彰を受けられ、英文学者・文学士として数多くの書籍を出版し、90歳を迎えた今も現役で活躍されています。講演では、コンピューターと知性について話され「問題を解決するには新しい知性が必要で、読書が重要である」と、年齢を感じさせない元気で熱く語り掛け、聴講者は大きくうなづいていました。

私は本まつりを毎年楽しみにしていますが、年々岩瀬文庫の素晴らしさと、岩瀬文庫の創設者である岩瀬弥助さんの偉大さを感じるようになりました。本まつりの立ち上げに関わり、岩瀬文庫の全ての蔵書を調査している名古屋大学大学院教授の塩村耕さんは「弥助さんは、寺津八幡社の神官であった渡辺政香が設立した、寺津八幡書庫に影響を受けて文庫を作る決意をしたのであろう」とおっしゃっていました。私は弥助さんがその崇高な志を生涯貫いたことに、



▲満席となった会場で、読書の大切さについて熱く語る外山滋比古さん。西尾市立図書館には、外山さんの著書を集めた特設コーナーがあります。

深い感銘を受けました。岩瀬文庫が設立された明治後期のころ、当時の豪商たちは豪邸を建てたり、事業拡大に力を注いだりしたのですが、弥助さんは岩瀬文庫の設立のみならず、鉄道敷設への出資や、学校の建設に土地や資金を提供するなど、地域の発展に大きく貢献しました。これからも弥助さんの功績と合わせて、岩瀬文庫が知の遺産として、地域の皆さんに親しまれていくことを願っています。

私の人生観を変えた岩瀬文庫 これからも、文庫や図書館へ通い、たくさんの書物との出会いを楽しみにして、充実した人生を送っていききたいと思っています。

広報サポーターは公募により選ばれた市民記者です。これからも市民の目線で市内各地のイベントなどを取材していただきます。